

### マスクとレインウェアの寄贈

新型コロナウイルス感染症予防対策として、松川造園土木株式会社様からマスク 3,000 枚を、工務店おかね様からマスク 2,200 枚を、(一社)大阪府建築士事務所協会様からレインウェア(雨合羽) 300 枚を寄贈していただきました。そのほか、多くの方々からご寄贈のご協力をいただきました。これらは感染症予防対策のために活用いたします。(寄贈いただきました方々の氏名は本紙 2 ページに掲載しています。)



【左上】工務店おかね  
(岡根 泰弘様)  
【右上】松川造園土木株  
(松川 文英様)  
【右下】(一社)大阪府建築士事  
務所協会様

### 生涯学習の充実に向けて

4月17日(金)、社会教育委員会議の北川優司議長が教育委員会へ、生涯学習に関する意見書を提出しました。教育委員会から委嘱を受けた2年間、スポーツ施設の視察や文化関係の研修会に参加するなど、積極的に取り組んでこられました。同会議で初となる提言を行った北川議長は「羽曳野市の生涯学習事業が、より充実することを願っています。」と期待されました。



### 浄瑠璃の文化を羽曳野市の子どもたちに

金銅真代さんは、河内ワインの専務をされながら、本市の教育委員も務められています。文化・芸術にも精通されて、地元の小学生に、『落語』『ジャズ』、そして『浄瑠璃』に触れる機会をつくられました。その中で児童たちが、浄瑠璃を一緒に語り、身を乗り出して大声で語る姿に感動されたそうです。そしてこのたび、浄瑠璃の六代豊竹呂太夫師匠より『女流義太夫 豊竹呂真』を拜命されました。「微力ながらも、日本の伝統芸能を、羽曳野の子ども達に伝え続けたいです。」と話されました。



### 婦人会からプレゼント～布製マスク～

4月中旬から、婦人団体協議会が市内の学童保育施設へ手作りマスクを届け始めました。この活動は市教育委員会が同協議会へ依頼したことがきっかけ。材料は市内にある子ども服の仕立て業者からの寄付などを受け、婦人会会員の皆さんが、『縫う』『ゴム通し』『袋詰め』の流れ作業で、まずは1,000枚のマスクを作製しました。今後も増産する予定です。同協議会会長の木村真知子さんは「感染症予防として少しでもお役にたてれば。」と話されました。



### ダルビッシュ有投手 1勝で1万円寄附へ

4月6日(月)、郷土のスター、米大リーグ シカゴ・カブスに所属するダルビッシュ有投手が、ビデオゲーム「プロ野球スピリッツ」で1勝ごとに「ダルビッシュ有子ども福祉基金」へ1万円を寄附することをツイッターで更新しました。本来ならば、公式戦で1勝するごとに10万円の寄附を頂いておりましたが、今季は新型コロナウイルス感染症拡大のため開幕が遅期となっていました。現在の主な寄附金の用途は、児童養護施設を退所する方への奨学金として活用しています。



### 「第12回グリーンフェスタはびきの」記念植樹

羽曳野市みどり推進協議会より「第12回グリーンフェスタはびきの」記念植樹として、市の花「桃(ハナモモ)」の木を寄贈していただきました。以前に植樹されていた桃の木(昭和50年羽曳野ライオンズクラブ寄贈)がクビアカツヤカミキリの被害に遭い、枯死してしまいました。新しく植樹したハナモモは、2代目の桃の木として、来年の3月には花を咲かし、来庁された方を迎えてくれるでしょう。



【写真上】植樹された桃の木を囲む真銅会長(右)と北川市長(左)  
【写真下】ハナモモの記念植樹プレート